

政策番号	8	政策分野	産業・商業
------	---	------	-------

基本方針	京都のまちに脈々と受け継がれてきた匠のわざ、企業のもつ優れた技術力、知の集積拠点である大学など、これまで築き上げてきた「京都力」を生かし、「ものづくり」、「ことづくり」、「ひとづくり」により、京都ならではの産業・商業振興を進める。また、市民の健康と豊かな食生活を維持するため、流通体制の整備を進める。
------	--

担当局	産業観光局	共管局	
-----	-------	-----	--

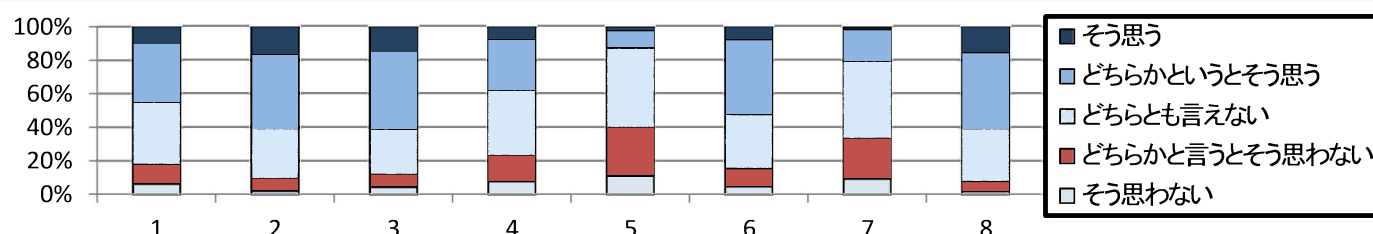
政策の評価

1 客観指標評価

指標名		23年度 評価値	32年度 目標値	23 年度	24 年度	25年度評価				
						前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1	製造業における市内総生産(億円)	9,517 (-5.7%)	-	e	e	8,132	8,447(3.9%)	9,906(3.1%)	85.3%	a
2	京都府の完全失業率(%)	5.6	4	b	a	4.8	4.9	4.9	100.0%	a
3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
客観指標総合評価				d	c	a				

2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		23年度	24年度	25年度
1	京都では、さまざまな企業や産業の活動が互いに刺激し合って発展している。	b	b	b
2	京都では、価値を高めるために工夫したものづくりが行われている。	b	b	b
3	京都の特色を生かした産業活動が行われている。	b	b	b
4	京都の商業は盛んで楽しく買い物ができ、元気な商業者が多い。	c	c	c
5	働くことを希望するひとがいきいきと働ける場を得る機会がある。	d	d	d
6	京都では、産業界・大学・行政などが連携して、企業の誘致や事業環境の整備を進めている。	b	b	b
7	ソーシャルビジネス(社会的企業:社会問題(まちづくり、少子高齢化、環境問題など)の解決を目的として収益事業に取り組む事業体)が育ってきている。	c	d	c
8	京都の卸売市場は、安全・安心な生鮮食品の提供に役立っている。	b	b	b
市民生活実感調査総合評価		b	c	b



2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

23年度		24年度		25年度	
順位	%	順位	%	順位	%
13	16.6%	13	16.3%	23	75.3%

3 総合評価

B	政策の目的がかなり達成されている		
【客観指標】・日本の景気は、リーマン・ショック後の大幅な景気悪化を経て、平成21年春頃を底に持ち直しはじめ、平成22年夏には、いわゆる「猛暑効果」により、個人消費が大きく伸びた。秋に入ってから、急激な円高の進行や、エコカー補助金終了の影響等により、景気は足踏み状態となり、更には、平成23年3月に発生した東日本大震災により、日本全体の経済活動は大きな影響を受けたものの、京都市内における平成22年度の市内総生産は、前年から増加し、成長率も目標値を上回ったため、a評価となった。 ・完全失業率は、日本全体では低下する一方、近畿が唯一上昇した地域となったが、京都府内では、府市協調による雇用対策を実施する中、経済も徐々に回復基調に向かっており、a評価となった。		24年度	C
【市民の実感】・ソーシャルビジネスが育ってきているかという設問に対しては、約5割の方が「どちらとも言えない」と回答するなど、ソーシャルビジネスの認知度がまだ低いものの、昨年度と比べて、評価は向上した。 ・その他の設問については、基本的に昨年度と同様の評価となった。 ・失業率は改善したものの、雇用に関する設問に対してはやや否定的な回答が多く、市民の実感には至っていないと思われる。また、中小企業や大学が多いという都市特性から、産業活動や付加価値を高めるものづくり、産学公連携などについては、かなり肯定的な回答が多い。		23年度	C
【総括】・客観指標が市民の実感を上回る結果となった。 ・日本の景気が上方への局面変化を示す中、市民全体の実感につながるには、時間がかかると考えられるが、取組に対する一定の評価は得ていると考えられる。 ・こうしたことを総合的に勘案し、この政策の目的は、かなり達成されていると評価する。			

今後の方向性の検討

<この政策を構成する施策とその総合評価>

施策番号	施策名	評価結果			参照ページ
		23	24	25	
0801	多様で活力ある中小・ベンチャー企業の育成と発展支援	A	A	A	101
0802	産学公の連携による新産業の育成・振興と新事業の創出	A	A	A	103
0803	京都の強みを生かした事業環境の整備	A	A	A	105
0804	伝統産業の活性化と新たな展開の推進	B	A	B	107
0805	地域の特性に応じた商業振興	B	B	B	109
0806	ソーシャルビジネス(社会的企業:社会問題の解決を目的として収益事業に取り組む事業体)への支援	C	B	B	111
0807	市民に安心していただける流通体制の強化	A	A	A	113
0808	雇用の維持・確保と新たな雇用創出に向けた取組の推進	B	B	B	115

<今後の方向性>

・それぞれの企業がさらに発展し、生活の豊かさを実感できるまちの実現に向け、地域の経済力を高めるため、京都企業の競争力を高め、海外や市域外で所得を稼ぐ産業振興を図る成長戦略を進めるとともに、雇用を守り地域を支える企業の金融・経営支援や、技術・研究開発支援に取り組み、中小・零細企業の下支えを行う。

・付加価値の高いものづくりやサービスの創発、京都の独自性と創造性を生みだすまちの実現に向け、産学公の連携の下、京都に集積する優れた技術と知的資源をいかして、イノベーション(技術革新)を創出し、「環境・エネルギー」、「ライフサイエンス」など社会課題解決型の成長分野や、マンガ・アニメ等の京都の持つコンテンツの魅力を活用した産業振興などに取り組むとともに、京都の基盤産業である伝統産業の海外展開等を支援し、活性化を図る。

・にぎわい、魅力あふれるまちの実現に向け、地域の魅力を高める商店街づくりや、収益性を確保しつつ、市民と協力しながら社会的課題の解決につなげるソーシャルビジネスが生まれる環境づくりを推進するほか、中央卸売市場の活性化等により、市民に安心していただける流通体制の強化に取り組む。

・働くことを希望するひとが就業できるまちの実現に向け、魅力ある京都の企業情報の発信や、府市協調による学生や若年求職者に対する就職支援など、雇用の維持・確保と新たな雇用創出に向けた取組を推進する。

政策名	8	産業・商業
-----	---	-------

指標名	製造業における市内総生産（億円）		
-----	------------------	--	--

担当部室	商工部	連絡先	2 2 2 - 3 3 2 5
------	-----	-----	-----------------

1 指標の説明

市内製造業が1年間に生み出した付加価値の総額

2 指標の意味

「新たな価値をつくる都市」の進み具合を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：経済活動別市内総生産（実質，平成17暦年連鎖価格）における製造業計の市内総生産の実績値
出典：京都市の市民経済計算（京都市総合企画局）

4 数値

10年後の（平成32年度）目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	9,517（-5.7%）	-	

	前回数値 21年度	最新数値 22年度	推移	単年度目標値		
				数値	根拠	達成度
数値	8,132	8,447 (3.9%)	315億円増 (3.9ポイント増)	9,906 (3.1%)	中長期目標達成の目安となる毎年度の数値及び増減率 ※市内総生産は，本来中長期的な視点で評価すべき指標であるため，毎年度の評価は暫定のものとし，中長期目標の達成状況評価に用いる平成27年度数値が公表される平成29年度に評価を確定させる。 ※毎年度の評価は，平成20～22年度は中長期目標設定時の国の成長率見通し（暦年値）との比較で評価し，平成23～27年度は「京都市新価値創造ビジョン」の目標成長率の達成状況で評価する。	85.3%

	全国順位	中長期目標		
		数値	目標年次	達成度
数値		10,937億円 (暫定値)	27年度	77.2%

5 評価基準

最新数値（増減率）の目標値に対する差が
a：0ポイント以上
b：-0.5以上～0ポイント未満
c：-1.0以上～-0.5ポイント未満
d：-1.5以上～-1.0ポイント未満
e：-1.5ポイント未満

6 基準説明

当該指標については，目標達成をa評価とし，以下0.5ポイント刻みで基準を設定した。

7 評価結果

23	24	25
e	e	a

備考

数値の公表時期の関係から，2年前の数値が最新となる。また，最新数値公表時に，過年度数値も遡って修正される。
なお，国において22年度製造業市内総生産で基準改定が行われたため，過去の数値及び目標値等についても，新たな基準で再計算し，遡って数値を修正している。

政策名	8	産業・商業					
指標名	京都府の完全失業率（％）						
担当部室	商工部	連絡先	2 2 2－3 3 2 9				
1 指標の説明							
京都府域における，労働力人口に占める完全失業者の割合を示す経済指標							
2 指標の意味		3 算出方法・出典等					
働くことを希望するすべてのひとが就業できる社会の実現に向けた進捗状況を示す指標		算出方法：完全失業者（京都府）／労働力人口（京都府） 出典：総務省統計局「労働力調査」					
4 数値							
10年後の（平成32年度） 目標値	平成23年度評価値 5.6	平成32年度目標値 4	根拠 平成13～19年（いざなぎ景気）の期間中，一番低かった数値並み				
	前回数値 23年	最新数値 24年	推移	単年度目標値			
				数値	根拠	達成度	
数値	4.8	4.9	0.1ポイント減	4.9	平成32年目標達成のために当年達成すべき数値＝平成21年現況値（5.2％）と目標数値（平成32年4.0％）から各年の目標数値を等差的に算出	100.0％	
	全国順位	中長期目標			備考		
		数値	目標年次	達成度			根拠
数値							
5 評価基準		6 基準説明		7 評価結果			
最新数値の目標値に対する達成度が a：100％以上 b：85％以上～100％未満 c：70％以上～85％未満 d：55％以上～70％未満 e：55％未満		当該指標については，景気の動向に左右される部分が大きいが，目標値を上回ることも不可能ではないため，100％以上の達成をa評価とし，以下15％刻みで基準を設定した。		232425 baa			